

2 初めてはじの痛悔つうかい（続き）

聖書せいしょによってわたしたちは、最初さいしょの人間にんげん—アダムとエワ—がどのようようにして神様かみさまに背いたそむのかを知しっています。どうして二人ふたりがそのような気きを起おこしたのか分わかっています。二人は神様の戒めいましと愛あいに背そむいて自分じぶんの欲望よくぼうのままに生きよういとしました。その結果けっか、神様かみさまは二人を素晴すばらしい楽園らくえんから追放ついほうしました。もはや二人は、永久えいきゅうに神様の愛あいの中で神様かみさまとともに生活せいかつすることができなくななったのでした。

アダムとエワの子孫しそんたちも神様かみさまから離はなれました。彼等かれらは神様かみさまと他人たにんに対して罪つみを犯おかしました。しかし、いつも神様に従したがうようにつとめたノイやアウラムやモイセイのような人々ひとびともあつたのです。神様かみさまはモイセイによって十戒じゅつかいを私達わたしたちに授さずけました。神様かみさまは預言者よげんしゃをつか、生活せいかつのし方かたと神様の愛あいに帰かえる方法ほうほうを教おしえました。最後さいごに神様かみさまはその子イイスス・ハリストスを遣つかわされて、わたしたちが神様かみさまを愛あいし神様に完全かんぜんに従したがいさえすれば、わたしたちはまた神様かみさまを「我等われらの父ちち」と呼よび、ほんとうに神様かみさまの子供こどもとなれることを教おしえて下さいました。イイススは多くのお話はなしや人々ひとびとを使つかって、わたしたちが神様かみさまに帰かえるには何なにが必要ひつようであるかを教おしえて下さくだったのです。教会きょうかいは大齋おほのいみの準備じゆんびのための福音ふくいんの教訓きょうくんの中で、これらのことについて教おし

えています。みなさんは自分の聖書せいしょでこれらの教訓きょうくんを讀よんでみたいと思おもうでしょう。

(1) 本ほん当とうにハリストスに会あいたいと思おもつた小男こおとこザクヘイの話はなし

ザクヘイは裕福ゆうふくな集税人しゅうぜいにんで人ひとからあまり好すかれていませんでした。他の人々ひとびとからは馬鹿ばからしく見みえたでしょうが、ハリストスを見ようみと木きにまで登のぼったのでした。ハリストスはその姿すがたを見てザクヘイの家いえを訪おとずれました。ザクヘイは貧ますしい人々ひとびとに所持金しよじきんと財産ざいさんの半分はんぶんを施ほどこし、自分じぶんがだまして税ぜいを取り立たてた人ひとには四倍よんばいにして返かえすと約束やくそくしました。イイススはザクヘイに「今日きょう救きういがこの家いえを訪おとずれた。」と言いわれたのでした。（ルカ福音ふくいん 19章 1～18節）

(2) 謙遜けんそんな罪人ざいにんと誇ほこり高い男おとこ、集税人しゅうぜいにんとファリセイの話はなし

この話はなしでイイススは二人の人物じんぶつを描えがいておられます。自分じぶんは教会きょうかいのすべての規程きていを守まもっていると思おもい込み、いつも自己満足じこまんぞくしているファリセイ人と、自分じぶんがどんなに悪い人わるいひとであつたかを知しつて、ただ神様かみさまに「神よ、罪人ざいにんの私わたしを憐あわれんで下さい。」と言いつた罪人ざいにんの集税人しゅうぜいにんの二人ふたりです。イイススは神かみの前に罪つみを告白こくはくする人間にんげんだけが天国てんごくに席せきを与あたえられるだろうとわたしたちに教おしえておられます。（ルカ福音ふくいん 18章 9～14節）

（続く）